

第一号議案

平成 12 年度活動報告

1. 分科会

1.1 システム技術分科会

企画委員 (印 :まとめ役) (敬称略)		進め方
会 員	富士通	
長谷川 (名大大型) 藤村 (九州芸工大) 千葉 (天文台データ) 松澤 (北陸先端大)	尾川 (システム本部第三システム事業部) 松村 (コンピュータ事業本部エンタープライズサーバ事業部) 久門 (富士通研究所) 瓦井 (システム本部科学システム統括部) 那須野 (システムサポート本部ネットワークサポート統括部)	第 1 回会合 : 8 月 23 日 (東京) 第 2 回会合 : 11 月 15 日 (浜松) [合同分科会]
活動方針および活動内容		
1. 活動方針 <p>インターネット、イントラネットの爆発的な普及に伴い、会員所属機関でもネットワークシステムへの要求が変化してきている。特に、昨今の事件を契機に、ネットワーク、セキュリティ、ファイルシステム等のトータルシステム構築に関する要求が高まっている。</p> <p>科学技術計算、研究教育以外のシステムインフラ、ネットワーク関連事項、システムの運用など情報センターに関連した事項に関して、タイムリーなテーマを取り上げ、情報提供と会員間での議論の場を提供し、現状の問題解決と将来の方向性を探る。</p>		
2. 活動内容		
2.1 第 1 回 [メインテーマ : 大規模システムを支える新技術] 《参加者 : 73 名》		
(1) 富士通 2000 年対応の状況総括について (富士通)		
(2) SAN による大規模データベースサーバの可能性 (高エネ研)		
(3) SAN 環境に向けたストレージソリューション (富士通)		
(4) NC (Network Computer) の事例紹介 (東大)		
(5) パーチャルユニバーシティシステム (人間総合科学大学)		
(6) マルチメディア通信のためのネットワーク基礎技術 (富士通)		
2.2 第 2 回 [メインテーマ : セキュアネットワークの技術と課題] (合同分科会の分科会セッション) 《参加者 : 38 名》		
(1) ネットワーク認証の技術と課題 (富士通)		
(2) セキュアな通信技術 (富士通)		
(3) K E K の計算機環境と S S H (高エネ研)		
(4) F W (FireWall) と I D S (Intruder Detection System) の導入事例 (三重大)		
(5) 分科会等懇談会「ネットワークセキュリティの対策と工夫」		
2.3 合同分科会での分科会からの報告テーマ		
・ 大規模 Linux サーバの技術的問題点 (富士通)		

1.2 研究教育環境分科会

企画委員 (印 :まとめ役) (敬称略)		進め方
会 員	富士通	
山本 (日大工学部) 家本 (大阪経済大) 石川 (明治大) 三上 (関西大) 坂口 (筑波大)	遠藤 (システム本部関西システム統括部) 佐藤 (システム本部第三システム事業部) 小野 (システム本部中部システム統括部) 田中 (システム本部ト本部システム技術統括部) 宮本 (富士通北陸システムズ)	第 1 回会合 : 8 月 24 日 (東京) 第 2 回会合 : 11 月 15 日 (浜松) [合同分科会]
活動方針および活動内容		
<p>1. 活動方針</p> <p>初等中等教育機関での急速に変化する教育環境に対応して、高等教育機関である大学での教育研究活動の新たな IT の活用場面や「情報教育」のあるべき姿を再検討する事が求められている。</p> <p>本分科会では、「初等中等教育と高等教育との接続の改善」を含めて、大学での「情報教育」のあるべき姿について議論を深める。また、大学での教育研究活動における新たな IT の活用場面について、先進的な取り組み事例を中心に調査研究する。</p>		
<p>2. 活動内容</p> <p>2.1 第 1 回 [メインテーマ : 高度 IT を活用した研究教育環境への先進的な取り組み] 《参加者 : 50 名》</p> <p>(1) 大学での「教育の情報化」事例研究</p> <p>1) 「新しい情報教育環境」の構築 (法政大) - 小金井キャンパスを例にして -</p> <p>2) AML プロジェクトの成果と AML への展開 (青山学院大) - 産学官共同研究によるバーチャルユニバーシティの実証実験 -</p> <p>(2) デジタル化された映像教材の活用事例研究</p> <p>・ VOD を活用した Web ベース教育開発の現状について (高松大) - NHK ビデオの Web 教材化を中心に -</p> <p>(3) 「ネットワークを活用した教育 WG」活動報告 (関西大 / 富士通)</p> <p>(4) IT 動向</p> <p>1) 研究メモから大量研究論文まで超高速検索『フルサーチ瞬索シリーズ』(富士通)</p> <p>2) @nifty が提供する大学向けソリューション (富士通)</p> <p>(5) 「大学での情報教育のあり方」討論会の話題提供・問題提起</p> <p>1) 「教育の情報化」関連行政施策について (富士通)</p> <p>2) 大学での情報教育の現状と問題点 (大阪経済大)</p> <p>2.2 第 2 回 [メインテーマ : これからの大学での「情報教育」と IT] (合同分科会の分科会セッション)</p> <p>(1) IT 応用 (オンラインラーニング) 《参加者 : 33 名》</p> <p>1) e-Learning ご紹介 - KnowledgePool ONLINE (富士通ラーニングメディア)</p> <p>(2) IT 適用事例 (教育環境でのセキュリティ対策)</p> <p>1) A 大学におけるインターネット不正侵入とその対策事例 (富士通)</p> <p>2) 東京水産大学におけるスマートカード認証システム導入について</p> <p>(3) 「大学での情報教育のあり方」討論会 (その 1)</p> <p>(4) 分科会等懇親会「大学での情報教育のあり方」討論会 (その 2)</p> <p>2.3 合同分科会での分科会からの報告テーマ</p> <p>・ 大学教育の観点から見た Linux の効用について (京都ノートルダム女子大)</p>		

1.3 科学技術計算分科会

企画委員 (印 :まとめ役) (敬称略)		進め方
会 員	富士通	
金澤 (京大大型) 藤井 (宇宙研) 福田 (航技研) 野田 (愛媛大工学部)	奥田 (システム本部計算科学技術センター) 大空 (ソフトウェア事業本部 Linux 統括部) 高津 (システム本部科学システム統括部) 川上 (システム本部西日本システム統括部)	第1回会合 : 9月 8日(東京) 第2回会合 : 11月 15日(浜松) [合同分科会]
活動方針および活動内容		
<h4>1.活動方針</h4> <ul style="list-style-type: none"> ベクトル並列機については新世代のシステム(VPP800,VPP5000)が会員間に導入され本格的な利用が開始されている。ここにおける運用/性能両面からの検討が、今後の活発な利用、効率的な運用に向けて必要であるとともに、ベクトル並列機の導入を検討している会員各位への適切な情報提供を狙いたい。 一方、スカラ並列機については1999年度にいくつかの会員サイトに大規模なシステムが導入され運用が開始された。ここでの運用経験をもとに、拡大するスカラ並列機利用に向けて性能・運用両面からの議論を行いたい。 これらのメインサーバに関する議論とは別に、会員間では PC クラスタ(Linux-クラスタ)、Grid Computing 等の新しい利用技術への関心が高い。これらの技術の科学技術計算への適用、運用上の課題についても将来に向けてのトピックスとして、取り上げていきたい。 ベクトル並列機およびスカラ並列機の両者について、運用利用面、性能面からの議論を深める。 アプリ性能報告については一つの報告時間を短くして件数を増やし、多様な利用を視野に入れた検討をしたい。 新しい利用技術について適用状況等を考慮して効果があると判断された場合はトピックスとして取り上げる。 十分な議論ができるよう、時間配分には余裕を持ってプログラムを検討する。 <h4>2.活動内容</h4> <p>2.1 第1回 [メインテーマ:VPPの現状と並列分散コンピューティングの動向] 《参加者:88名》</p> <ol style="list-style-type: none"> ベクトル並列性能事例報告 <ol style="list-style-type: none"> V P P 800における大規模プラズマ粒子シミュレーション(宇宙研) V P P 5000による乱流の直接数値シミュレーション(東京理科大) NAS Parallel 1.0を用いたV P P 5000性能評価(九大応力研) V P P 5000/56の性能測定と運用経験について(名大大型) ベクトル並列機運用事例報告 <ol style="list-style-type: none"> V P P 800/12システムにおけるジョブ制御報告(宇宙研/富士通) V P P 800の新しい運用形態を求めて(京大大型) スカラ並列機の新機種紹介 <ol style="list-style-type: none"> 新U N I Xサーバ PRIMEPOWERについて(富士通) Parallelnaviについて -プログラム開発環境を中心に-(富士通) P CクラスタはPoor Man's Supercomputer(理研/北陸先端大) <p>2.2 第2回 [メインテーマ:スカラ並列機の性能評価と運用について](合同分科会の分科会セッション) 《参加者:55名》</p> <ol style="list-style-type: none"> スカラ並列機の性能とチューニング <ol style="list-style-type: none"> 共有メモリ型スカラ計算機の処理性能について(名大大型) StarfireのNASA Benchmarkをベースにした性能評価(北陸先端大) スカラ並列機におけるアプリの高速化事例(富士通) スカラ並列機の基礎性能(富士通) 「スカラ並列技術WG」経過報告 九州大学情報基盤センターにおけるG P 7000 Fの運用と利用状況について Parallelnaviについて -運用管理機能を中心に-(富士通) 分科会等懇談会「パラレルとパラレル - S M Pサーバ対P Cクラスタ-」 <p>2.3 合同分科会での分科会からの報告テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> 理工系ツールとしてのLinux(成蹊大) 		

1.4 合同分科会

企画委員 (印 :まとめ役) (敬称略)		進め方
会 員	富士通	
天野 (九大情報基盤) 谷口 (大阪教育大) 石田 (法政大)	今井 (富士通ラーニングメディア) 諫山 (ネットワーク事業本部) 平木 (コンピュータ事業本部) 山田 (システム本部科学システム統括部)	11月15日～16日 (グランドホテル浜松)
活動方針および活動内容		
<p>1.活動方針</p> <p>会員が一堂に会する機会を捉え、今後の科学技術分野での情報システムの方向性を模索する共通性のあるメインテーマを選定し、情報交換が活発に行われる活動を目指す。今年度のメインテーマは、「オープンソース時代を考える」とする。</p> <p>なお、運営は以下の考え方にに基づき実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分科会セッションは、十分な時間を確保するため、夜の時間を含めて利用できるようにする。 ・夜の分科会等懇談会は、多数の方に参加して頂けるよう、分科会を継続して行うことに加え、別の枠も設ける。 ・2日目の午前中に、Linux に係わる特別報告を実施後、各分科会から、共通テーマ「Linux」も入れた報告を行う。その後、テーマを明確にした討論会を実施する。 ・2日目の午後は、デモ/リサーチ・エキジビット、WG報告、一般報告を実施後、特別講演を実施する。 <p>2.活動内容</p> <p>[メインテーマ:オープンソース時代を考える] 《参加者:215名》</p> <p>会長挨拶 渡瀬会長 開催趣旨 分科会セッション:分科会等懇談会までの時間を含めて、パラレルで実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・システム技術分科会第2回会合 ・研究教育環境分科会第2回会合 ・科学技術計算分科会第2回会合 <p>特別報告『富士通のLinuxへの取り組み』(富士通 常務取締役 前山淳次) 分科会報告:共通テーマ「Linux」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大学教育の観点から見たLinuxの効用について」(京都ノートルダム女子大) ・「理工系ツールとしてのLinux」(成蹊大) ・「大規模Linuxサーバの技術的問題点」(富士通研究所) <p>討論会「Linuxの適用分野とその可能性」 コーディネータ:天野浩文(九大情報基盤) パネリスト:吉田智子(京都ノートルダム女子大学、日本Linux協会 副会長) 小川隆申(成蹊大学工学部) 久門耕一(富士通研究所)</p> <p>デモ/リサーチ・エキジビット 会員出展:7件、富士通出展:29件、ISV出展:1件</p> <p>WG報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究開発支援環境 ・Webベースの教育支援環境 ・ネットワークセキュリティ <p>特別講演『Spring-8の概要と情報処理システムの利用について』 (財)高輝度光科学研究センター 放射光研究所 瀬崎勝二氏) 一般報告『研究者・エンジニアのためのネットコミュニティ「NetLaboratory」のご紹介』(富士通) 文化講演『古代建築から日本文化を考える』(奈良女子大 上野邦一氏)</p> <p>まとめ</p>		

1.5 HPCミーティング 2000

企画委員 (印 :まとめ役) (敬称略)		進め方
会 員	富士通	
福田 (航技研) 戎崎 (理研) 浦部 (名大大型) 蕪木 (原研)	石橋 (人材開発部) 三浦 (コンピュータ事業本部) 神谷 (ソフトウェア事業本部開発企画統括部) 平沢 (システム本部科学システム統括部) 海野 (富士通中部システム)	11月16日～17日 (グランドホテル浜松)
活動方針および活動内容		
<h3>1. 活動方針</h3> <p>HPCミーティングは、エンドユーザという立場から、産・官・学の間で先端的なアプリケーションに関する技術の情報交流を図る目的で実施する。</p> <p>最新の世界の「トップ500スーパーコンピューティング・サイト」では、ついに商用マシンでも1テラフロップスを超えた。富士通のVPPもトップ50の中に6サイトが登録されている。また、Gridコンピューティングや、富士通が発表した研究者・エンジニアのためのネットコミュニティ「Net Laboratory (インターネット上の仮想研究所)」のように、新しい利用方法もいろいろと提案され、実践に移されている。</p> <p>このような状況を受けて、今年度は稼働中のVPPに関するアプリケーションの利用状況の紹介、ISVソフトの性能評価の紹介を行う一方、新技術の動向として、Gridコンピューティング、専用計算機、プロセッサ技術などについてその一端を紹介する。</p>		
<h3>2. 活動内容</h3> <p>[メインテーマ : バックトレ技術と新技術の動向] 《参加者 : 175 名》</p> <p>富士通役員挨拶</p> <p>『HPCへの取り組み』(富士通 常務取締役 宮澤達士)</p> <p>招待講演</p> <p>『Brain Research in a Distributed Environment - Telemicroscopy and Grid Computing - 』 (Mark Ellisman, Ph. D. Director, National Center for Microscopy and Imaging Research, University of California at San Diego)</p> <p>一般報告</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 数値シミュレーションによるタイヤの性能予測 (横浜ゴム (株)) 2) 分子科学計算におけるスーパーコンピュータの利用 (岡崎研) 3) MDM (Molecular Dynamics Machine) : 分子動力学シミュレーション専用計算機 (理研) 4) VPP5000 向け ISV アプリケーション (富士通) 5) 次期 HPC サーバについて (富士通) <p>総合討論</p> <p>リサーチ・エキジビット / デモ</p> <p>会員出展 : 7 件 (以下の機関)、富士通出展 : 29 件、ISV 出展 : 1 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宇宙科学研究所 ・ 岡崎国立共同研究機構計算科学研究センター ・ 九州大学情報基盤センター ・ 航空宇宙技術研究所 ・ 国立天文台天文学データ解析計算センター ・ 日本原子力研究所 ・ 横浜ゴム (株) 		

2.WG

2.1 ネットワークセキュリティWG

企画委員 (印 :まとめ役) (敬称略)		進め方
会 員	富士通	
長谷川 (名大大型) 湯浅 (高エネ研計算) 千葉 (天文台データ) 久野 (原研) 山守 (三重大) 吉田 (理研)	山村 (システム本部科学システム統括部) 本橋 (システム本部第三システム事業部)	第1回会合 : 5月24日 (東京) 第2回会合 : 7月24日 (東京) 第3回会合 : 9月27日 (東京) 第4回会合 : 12月15日 (東京) 第5回会合 : 3月21日 (東京)
活動方針および活動内容		
<h4>1.活動方針</h4> <p>会員所属機関ではネットワーク経由での外部からのアタックや spam mail などの被害が何件か発生しており、これに対する日常的な備えや、いざという時の適切な対応方法の整理が必要となっている。本WGでは、平成11年度はSolaris 2.6 および Solaris 7 ベースでのシステム管理上のガイドライン、Firewall でのフィルタリング方法 (ポート番号など)、関連ツールの機能と評価などをガイドライン (チェックリスト) として整理を行った。現在は、社会的なニーズに応じて、整理できた内容からSS研ホームページで公開中である。</p> <p>今年度も、平成11年度に引き続き継続的な活動が会員全体にとって有益と考え、以下のように計画している。</p>		
<h4>2. 活動内容</h4> <p>2.1 成果物 (ネットワークとワークステーション管理のためのセキュリティガイド)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1版 平成12年5月12日 ・第1.1版 平成12年6月6日 ・第1.2版 平成12年6月16日 ・第1.3版 平成12年6月29日 ・第1.4版 平成12年11月13日 ・第2版 平成13年5月11日 <p>2.2 会合</p> <p>2.2.1 第1回 《参加状況：会員5名、富士通3名》</p> <p>(1)平成12年度活動内容(計画) 平成11年度活動のフォロー、平成12年度の具体的な活動内容の計画</p> <p>(2)平成12年度WGメンバー</p> <p>2.2.2 第2回 《参加状況：会員4名、富士通2名》</p> <p>(1)ActionItem 実施状況の確認 (2)平成11年度ガイドライン (3)平成12年度ガイドラインのまとめ方 (4)平成12年度ガイドラインの内容 (5)合同分科会WG報告 (6)ガイドラインの公開方法 (7)今後の進め方</p> <p>2.2.3 第3回 《参加状況：会員6名、富士通3名》</p> <p>(1)ActionItem 実施状況の確認 (2)平成11年度ガイドライン (3)平成12年度ガイドライン (4)合同分科会WG報告</p> <p>2.2.4 第4回 《参加状況：会員4名、富士通2名》</p> <p>(1)ActionItem 実施状況の確認 (2)平成11年度ガイドライン (3)平成12年度ガイドライン (4)ガイドラインの公開時期</p> <p>2.2.5 第5回 《参加状況：会員4名、富士通3名》</p> <p>(1)ActionItem 実施状況の確認 (2)平成12年度ガイドラインのまとめ 構成の確認、各資料の内容の検討、今後の進め方</p>		

2.2 Web ベースの教育支援環境 WG

企画委員 (印 :まとめ役) (敬称略)		進め方
会 員	富士通	
三上 (関西大) 山本 (日大工学部) 田中 (関西大) 佃 (高松大)	遠藤 (システム本部関西システム統括部) 役 (システム本部第三システム事業部) 中西 (富士通インフォソフテクノロジ)	第 1 回会合 : 5 月 19 日 (高松大) 第 2 回会合 : 7 月 18 日 (東京) 第 3 回会合 : 10 月 18 日 (大阪) 第 4 回会合 : 2 月 28 日 (大阪) 第 5 回会合 : 4 月 3 日 (東京)
活動方針および活動内容 (予定を含む)		
<h3>1.活動方針</h3> <p>平成 11 年度からの継続テーマとして、下記 3 点を中心に活動していく。</p> <p>1) 底辺の学生を対象にした教育効果向上 (補習) のためのシステム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語 : Internet Navigware と NHK 映像教材を連携させたシステムを作成した、高松大学での利用検証を踏まえて共有可能教材への移行を検討する。 ・ 物理 : 2~3 件の物理の基礎的現象 (例:ドップラー効果) について物理の先生を交えて開発する。 ・ 表現能力 : Internet Navigware をベースに VRML 言語入門教材を試作する。同時に、プレゼンテーションに関する最適な入門書についても調査・検討を行う。 <p>2) 2 位グループの学生を対象にした教育効果向上 (復習) のためのシステム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Internet Navigware をベースに論理回路入門教材を試作する。 <p>3) 共有、再利用可能な教材の形式および仕組みに関する検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度のメインテーマとして位置付け、山本企画委員が前年度提案した「高可搬学習教材の記述方法の考察」を基本にして以下の項目について検討する。 <ul style="list-style-type: none"> - XML 形式ベースで進める。 - 再利用するための前提条件の設定を行う。 - 環境 (ネットワーク) を考慮する。 - 国際規格 (AICC) をふまえ、教授法も含めより良い形式を模索する。 ・ この検討には 1)、2) で作成されたシステム等を素材とし、共有、再利用可能な教材の形式およびその環境に関する検討を行う。 <h3>2.活動内容</h3> <p>2.1 第 1 回 《参加状況 : 会員 4 名、富士通 3 名》</p> <p>(1) 活動成果および活動計画についての確認</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 底辺の学生を対象とした教育効果向上 (補習) のためのシステム 2) 2 位グループの学生を対象とした教育効果向上 (復習) のためのシステム 3) 共有、再利用可能な教材の形式およびその環境に関する検討 <p>(2) 英語映像教材に関する開発状況およびデモ</p> <p>2.2 第 2 回 《参加状況 : 会員 4 名、富士通 3 名》</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 底辺の学生を対象とした教育効果向上 (補習) のためのシステム進捗状況 (2) 2 位グループの学生を対象とした教育効果向上 (復習) のためのシステム進捗状況 (3) 共有、再利用可能な教材の形式およびその環境に関する検討 <p>2.3 第 3 回 《参加状況 : 会員 2 名、富士通 5 名》</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 底辺の学生を対象とした教育効果向上 (補習) のためのシステム進捗状況 <ul style="list-style-type: none"> 英語 : 活用実践に関する中間評価報告 物理 : 補完教育としての取り組み状況報告 情報処理言語 : Java と VB に関する教材作成状況報告 表現能力 : PowerPoint 入門映像教材の紹介と表現能力向上教材としての要求事項の整理 (2) 共有、再利用可能な教材の形式およびその環境に関する検討 <ul style="list-style-type: none"> XML をベースとした教材開発の可能性に関する検討 (3) その他 <ul style="list-style-type: none"> ・ AICC (国際規格) 概略説明 ・ WG 報告書 (案) の検討 ・ 合同分科会での WG 報告について <p>2.4 第 4 回 《参加状況 : 会員 3 名、富士通 4 名》</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 底辺の学生を対象とした教育効果向上 (補習) のためのシステム進捗状況 (2) 2 位グループの学生を対象とした教育効果向上 (復習) のためのシステム進捗状況 (3) 共有、再利用可能な教材の形式およびその環境に関する検討 (4) 報告書目次案および執筆分担の決定 (5) その他 <ul style="list-style-type: none"> ・ 総会での WG 報告について <p>2.5 第 5 回 《参加状況 : 会員 3 名、富士通 3 名》</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 成果報告書のレビュー 		

2.3 Web ベースの可視化技術 WG

企画委員 (印 :まとめ役) (敬称略)		進め方
会 員	富士通	
鵜飼 (高工ネ研計算) 天野 (九大情報) 安岡 (京大人文科研) 山崎 (原研)	松浦 (システム本部計算科学技術センター) 大空 (ソフトウェア事業本部 Linux 統括部) 相沢 (システム本部科学システム統括部) 大橋 (富士通インフォソフテクノロジ)	第1回会合 : 5月31日 (東京) 第2回会合 : 7月21日 (京都) 第3回会合 : 10月27日 (九大) 第4回会合 : 1月26日 (東京) 第5回会合 : 4月6日 (東京)
活動方針および活動内容 (予定を含む)		
<h3>1. 活動方針</h3> <p>ここ数年来、全国の高速計算機施設には高機能可視化設備が多数設置されてきた。しかし、少数の先進ユーザを除いては、これらの可視化設備は十分に活用されていないというきらいがある。また、比較的使いやすい汎用可視化ソフトといわれる AVS でも、実際に具体的課題に適用し使いこなすためには可視化技術特有のスキルに習熟する必要があるといわれ、広く利用・普及するに至っていない。</p> <p>一方、従来は高速のグラフィックス WS 等でなければ実現できなかった描画性能が、比較的安価な PC でも達成できるようになってきている。また、可視化システムに対する入力ファイルやパラメータ等の指定といった簡便な操作を行ったり、可視化結果を画面に表示する程度の処理であれば Web ブラウザを通じても簡単に行えるようになってきている。このため、個々の利用者が、自分の目的に合った限られた種類の可視化結果を得るだけのために、高機能ではあるが習熟の難しい汎用可視化システムを各自の手元に備えなければならない理由は薄れつつある。</p> <p>したがって、中央の計算機施設に備えられた汎用可視化システムを Web を通じて利用できる環境を、利用目的に合わせて整備することは、可視化技術をより使いやすいものとする上で極めて有効である。そこで、利用者現場の事例検討に基づいて、可視化技術の現状における問題点の把握と、Web ベースの可視化技術の利用拡大へ向けての方策の検討・提案を行う。</p>		
<h3>2. 活動内容</h3> <p>下記の活動を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 利用者現場の事例に基づく可視化技術利用上の制約要件の調査・分析。 (2) Web 環境での可視化技術要素の最適配置のシステム化検討。 (3) 上記システム化検討結果の一部を WG メンバにより実装し評価する。 <p>また、WG 活動を通じて入手される可視化支援環境ソフト (課題対応のプロシージャ、ユーティリティ等) と活用事例・情報を整理し、公開可能なものから、適宜、広報・流通を図っていきたい。</p>		
<p>2.1 第1回 《参加状況：会員3名、富士通6名》</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 平成12年度 Web ベースの可視化技術 WG 活動計画の策定 (2) 今後のスケジュール <p>2.2 第2回 《参加状況：会員3名、オブザーバ1名、富士通5名》</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) VisLink 紹介 (2) AVS の現状 (3) 実時間可視化システム詳細説明 (4) ピクセル指向型可視化技法の紹介 (5) 素粒子・原子核分野でのグラフの枠の例 <p>2.3 第3回 《参加状況：会員5名、富士通4名》</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) AVS Express を使った数値データ可視化システム (2) AVS の現状 (3) 中間データ方式検討報告 (4) 走っているプログラムの中身を見るには (5) realtime 可視化の国内外調査とその比較 (6) グラフ化ツールについて <p>2.4 第4回 《参加状況：会員3名、富士通4名》</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 中間報告について (2) 通常総会報告について (3) プログラムの中身を見る方法について (4) 中間報告詳細検討 (5) 次年度の方針検討 <p>2.5 第5回 《参加状況：会員3名、富士通4名》</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 通常総会での成果報告について (2) 成果報告書のレビュー 		

2.4 教育用クライアントWG

企画委員 (印 :まとめ役) (敬称略)		進め方
会 員	富士通	
藤村 (九州芸工大) 和田 (愛媛大) 佐藤 (大阪教育大) 鳩貝 (甲南大) 阪井 (明治大)	尾川 (システム本部第三システム事業部) 金子 (ソフトウェア事業本部開発企画統括部) 菅谷 (システム本部科学システム統括部) 寺島 (システム本部関西システム統括部)	第1回会合 : 7月25日 (東京) 第2回会合 : 9月19日 (東京) 第3回会合 : 10月24日 (大阪) 第4回会合 : 1月31日 (福岡)
活動方針および活動内容		
<h3>1. 活動方針</h3> <p>1) 背景/環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの情報処理センターにおいては、情報処理教育などのために多数のパソコンが導入されている。 Windows系OSとUNIX系OSの両方を導入してサービスを提供している。 パソコンは、なりは小さくても一人前のコンピュータで、パソコン台数とOSの増加につれて、ソフトウェアのバージョンアップを始め、毎日の管理・運用の手間は増加する一方である。 <p>2) 前提条件</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報処理センターの機種更新に際し、レンタル契約が従来の4年から5年に延長される。 必要な端末数はさらに増加するだろう。 Windows系OSとUNIX系OSは相変わらず使用されるだろう。 <p>3) 教育用端末の要件</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間が経過しても利用者から見た処理能力を十分に維持できること。 端末台数が増えても管理・運営の手間が増えないばかりでなく、できれば減少して欲しいこと。 今後のソフトウェアの変革に合わせて柔軟に対応できるシステムであること。 <p>4) 検討内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育システム要件(複数)の検討(内容、求められる機能など) 現状の製品のフィジビリティ・スタディと調査・実験 教育システムの設計(複数モデル) 同上 評価・分析と実現 (2~3年後の理想的なシステムのモデル化) 		
<h3>2. 活動内容</h3> <p>2.1 第1回 《参加状況：会員3名、富士通5名》</p> <ol style="list-style-type: none"> WGメンバーの紹介 教育用クライアントへの要望 教育用クライアント要件 第2回会合日程と議題 合同分科会 WG 報告について <p>2.2 第2回 《参加状況：会員5名、富士通3名》</p> <ol style="list-style-type: none"> WGメンバーの紹介 第1回会合の検討整理 製品/事例の紹介と検討 アンケート結果についての検討 WGの検討目標設定について その他 <p>2.3 第3回 《参加状況：会員5名、富士通4名》</p> <ol style="list-style-type: none"> 今までの会合の検討について 九州芸術工科大学からの報告 大阪教育大学の事例紹介 BT300 デモ BT動作ソフト一覧紹介 教育用教室モデルのクライアント端末比較調査 今後の進め方 <p>2.4 第4回 《参加状況：会員4名、富士通3名》</p> <ol style="list-style-type: none"> 通常総会での成果報告について 成果報告書のレビュー 来年度への継続について 		

2.5 スカラ並列技術 WG

企画委員 (印 :まとめ役) (敬称略)		進め方
会 員	富士通	
福田 (航技研) 藤井 (宇宙研) 永井 (名大大型) 姫野 (理研)	森重 (システム本部計算科学技術センター) 青木 (ソフトウェア事業本部開発企画統括部) 石田 (システム本部科学システム統括部)	第1回会合 : 7月 7日 (東京) 第2回会合 : 9月 22日 (東京) 第3回会合 : 12月 5日 (東京) 第4回会合 : 2月 23日 (東京) 第5回会合 : 4月 24日 (名大)
活動方針および活動内容		
<h3>1. 活動方針</h3> <p>各会員サイトにおける代表的なプログラムを利用してスカラ機における性能を評価し、会員間の情報交換を行うとともに、スカラ機運用の指針とする。</p> <p>平成12年度は、会員サイトを中心に代表的なアプリを選定し、カーネルへの切り出しを実施する。また、ライブラリとして使用されるプログラムについても検討を行い、評価プログラムを選定する。更に、中小規模システムでの、自動並列化による予備評価を実施して、中間報告書を作成する。</p> <p>平成13年度は、64CPU超の大規模システムでの詳細測定を実施する。評価に当たっては、OpenMPでの並列化/プログラムチューニングも含めて検討する。チューニング/並列化作業については、選定したプログラムに対して、会員が主体となり、実施する。</p> <p>最終的に、並列性能/チューニング効果について評価を行い、最終報告書を作成する。</p>		
<h3>2. 活動内容</h3> <p>2.1 第1回 《参加状況：会員4名、富士通6名》</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 活動目的と役割分担の確認 (2) 成果物と活動スケジュールの検討 (3) 活動するための環境(使用マシン、情報交換の方法等)の検討 <p>2.2 第2回 《参加状況：会員4名、富士通6名》</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 会員(名大大型, 理研)からの報告と、その検討 (2) 富士通からの自動並列化現状報告と、その検討 (3) NetLaboratoryの活用についての検討 (4) 科学技術計算分科会第2回会合(合同分科会)での状況報告についての検討 <p>2.3 第3回 《参加状況：会員5名、富士通5名》</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 会員(理研, 航技研)からの報告と、その検討 (2) 富士通からの報告(自動ベクトル化, 実コードのループ形態, ループ再構成による最適化)と、その検討 (3) NetLaboratoryへの参加者の扱いについての検討 <p>2.4 第4回 《参加状況：会員6名、富士通4名》</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 会員(航技研, 宇宙研)からの報告と、その検討 (2) 富士通からの報告(ラージページ機能, 並列化効果を阻害する要因等)と、その検討 (3) 中間報告書作成の検討 (4) 他分野のプログラム募集についての検討 <p>2.5 第5回 《参加状況：会員3名、富士通6名》</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 会員(航技研, 理研)からの報告と、その検討 (2) 富士通からの報告(ループタイリング, ラージページ/CPU固定機能)と、その検討 (3) 中間報告書のレビュー (4) 平成13年度の活動についての検討 <p>2.6 成果物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間報告書 		

3.委員会

3.1 ニュースレター編集委員会

企画委員 (印 :まとめ役)	(敬称略)	進め方
会 員	富士通	
谷口 (大阪教育大) 福田 (航技研) 三科 (高エネ研物構研) 坂口 (筑波大) 松澤 (北陸先端大)	門前 (システム本部科学システム統括部)	第1回会合 : 7月31日 (東京) 第2回会合 : 4月 4日 (東京)

活動方針および活動内容 (予定を含む)

1. 活動方針

ニュースレター (会報) の内容の充実/早期発行、ホームページ上での見やすさ/使い勝手の向上、および年1回のCD-ROM発行に向け、活動を推進する。

2. 活動内容

2.1 第1回 《参加状況 : 会員5名、富士通1名》

- (1) ニュースレター公開実績報告
- (2) 平成12年度活動計画、活動内容、編集委員の役割の検討
- (3) ニュースレターおよびニュースレターCD-ROM版の改善に向けての検討
 - ・ ニュースレター編集会議の開催方法
 - ・ CD-ROM版の画面構成
 - ・ 著作権表示の記載
- (4) 「ニュースレター選集」の発行に関する検討
 - ・ 委員会の役割
 - ・ 編集方針
 - ・ 冊子の名称

2.2 第2回 《参加状況 : 会員4名、富士通1名》

- (1) ニュースレター公開実績報告
- (2) 「ニュースレター選集2001」の最終確認
- (3) ニュースレターCD-ROM版発行に向けてのコンテンツ確認
- (4) ニュースレターおよびニュースレターCD-ROM版の改善に向けての検討

・ニュースレター公開実績

公開日	内容	会合開催日
平成12年5月22日	第22回通常総会	平成12年5月12日
平成12年6月19日	第1回幹事会	平成12年6月16日
平成12年11月2日	システム技術分科会第1回会合	平成12年8月23日
平成12年11月7日	科学技術計算分科会第1回会合	平成12年9月8日
平成12年11月8日	研究教育環境分科会第1回会合	平成12年8月24日
平成12年12月14日	第2回幹事会	平成12年12月1日
平成12年12月27日	科学技術計算分科会第2回会合	平成12年11月15日
平成13年1月30日	システム技術分科会第2回会合	平成12年11月15日
平成13年2月5日	研究教育環境分科会第2回会合	平成12年11月15日
平成13年2月14日	HPCミーティング2000	平成12年11月17日
平成13年2月20日	合同分科会	平成12年11月15-16日

・ニュースレターCD-ROM版(平成13年度版) 発行日 : 平成13年7月

・SS研ニュースレター選集2001」 発行日 : 平成13年5月11日

3.2 電子化情報運営委員会

企画委員（印：まとめ役） （敬称略）		進め方
会 員	富士通	
藤村（九州芸工大） 三科（高工ネ研物構） 中村（航技研） 石田（法政大）	平川（システム本部科学システム統括部） 尾川（システム本部第三システム事業部）	第1回会合：7月27日（東京） 第2回会合：10月12日（東京） 第3回会合：3月13日（東京）
活動方針および活動内容		
<p>1.活動方針</p> <p>「電子化情報システム規定」に基づき、SS研サーバの運営管理、およびコンテンツの整備、ならびにSS研ホームページの活用促進を図る。</p> <p>2.活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サーバ運営管理：セキュリティ対策の検討 ・コンテンツ整備：SS研ホームページのアクセス状況分析と利用促進の検討 <p>2.1 第1回 《参加状況：会員4名、富士通2名》</p> <p>(1)作業実施報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子会議室の状況 <p>(2)サーバ運営管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新サーバ管理者 ・実施中のセキュリティ対策 <p>(3)分科会中継</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SS研サーバを利用したLive中継の検討 <p>(4)ホームページの活用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの利用状況 ・ホームページ利用のための要望対応検討 <p>2.2 第2回 《参加状況：会員4名、富士通1名》</p> <p>(1)サーバ運営管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施中のセキュリティ対策 <p>(2)分科会中継実績報告</p> <p>(3)ホームページの構成等の再検討</p> <p>(4)PHP4講習会</p> <p>2.3 第3回 《参加状況：会員4名、富士通2名》</p> <p>(1)ホームページの活用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの利用状況 ・ホームページのオープン化の検討 <p>(2)サーバ運営管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施中のセキュリティ対策 他 <p>3.関係する委員会との連携強化策の検討</p> <p>SS研サーバのコンテンツに関しては、会報関連ではニュースレター編集委員会と、会員開発の有用ソフト（ドキュメントを含む）の活用関連ではSS研ユーティ運営委員会と密接に関わっていて、SS研ホームページの活用促進を図るために、それぞれの委員会との連携強化を検討した。</p> <p>平成12年度は、会員側の企画委員がそれぞれの委員会で重複していることや、事務局内の情報伝達を利用した連携を行った。</p>		

3.3 SS研ユーティ運営委員会

企画委員 (印 :まとめ役) (敬称略)		進め方
会 員	富士通	
金澤 (京大大型) 三科 (高エネ研物構研) 中村 (航技研)	藤野 (富士通セレクトシステムズ・コアリング) 長尾 (西日本営業本部関西支社)	第1回会合 : 5月25日(東京) 第2回会合 : 10月25日(東京) 第3回会合 : 2月2日(京大)
活動方針および活動内容		
<p>1.活動方針</p> <p>会員間の情報交換の一環として、会員および富士通が作成したユーティ (プログラム、利用の手引き等のドキュメント、リンク集等) の充実と利用促進を図る。</p> <p>2. 活動内容</p> <p>2.1 第1回 《参加状況 : 会員2名、富士通4名》</p> <p>(1)ユーティ登録/ダウンロードの促進に向けての検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SE 会社への協力依頼 ・ 会員のアクセスを増やすための情報発信 ・ 試用ソフトウェアの最新版登録依頼 ・ UXP/V 用フリーソフトの定期的な移植/登録 <p>(2)オンラインソフト投票システムの改善に向けての検討</p> <p>(3)SS 研ユーティホームページの構成/デザインの改善</p> <p>(4)管理者用画面の改善に向けての検討</p> <p>(5)ユーティ以外の SS 研ホームページコンテンツとの連携についての検討</p> <p>2.2 第2回 《参加状況 : 会員3名、富士通4名》</p> <p>(1)ユーティ登録/ダウンロードの促進に向けての検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ UXP/V 用フリーソフトの定期的な移植/登録 ・ アクセス者へのヒアリング実施 <p>(2)オンラインソフト投票システムの改善に向けての検討</p> <p>(3)合同分科会での表彰、および デモ展示/パンフレットについての検討</p> <p>(4)SS 研ユーティホームページのデザイン改善に向けての検討</p> <p>(5)Linux 環境整備についての検討</p> <p>2.3 第3回 《参加状況 : 会員3名、富士通4名》</p> <p>(1)ユーティ登録/ダウンロードの促進に向けての検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ダウンロード者へのヒアリングの実施 ・ ダウンロード者へのアンケート発信の改善 ・ リンク集への Linux 関連ツールの追加 ・ 会員の実務担当者への情報発信方法の検討 <p>(2)SS 研ユーティホームページのデザイン改善に向けての検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体構成の見直し ・ 登録画面のガイダンス表示の改善 <p>(3)オンラインソフト投票システムの改善に向けての検討</p> <p>(4)平成12年度活動のまとめ</p> <p>(5)『活動のまとめ』の作成に向けての検討</p> <p>2.4 会合以外の活動</p> <p>(1)合同分科会でデモ、表彰を実施</p> <p>(2)分科会報告者、リサーチ・エキジビット/デモ出展者へのユーティ登録依頼の実施</p> <p>(3)SE 会社営業部門会議で紹介パンフレットを配布</p> <p>(4)SE 会社営業支援部門に紹介パンフレットと登録依頼レター送付</p> <p>(5)会員の会報誌/HP 等を調査し、ユーティ候補の選出、登録依頼</p> <p>(6)リンク集のアクセス状況の把握</p>		